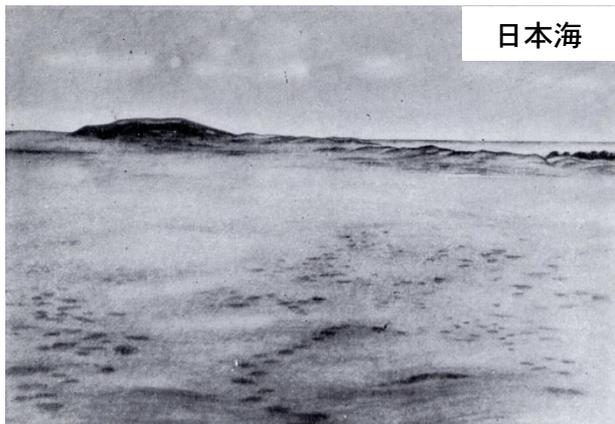


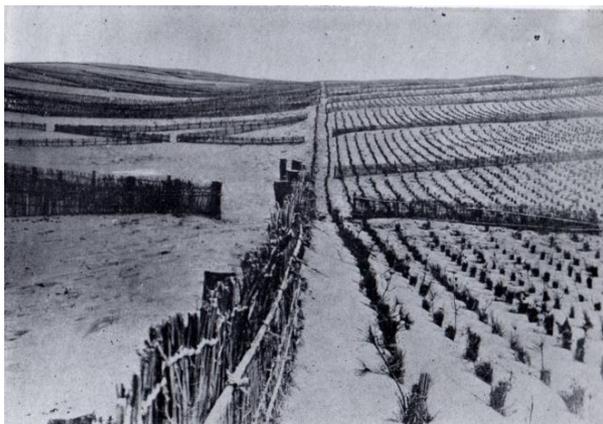
26 砂嵐の脅威から地域を保全した「加賀海岸国有林」 海岸 防災林造成事業

石川県（加賀市）



日本海

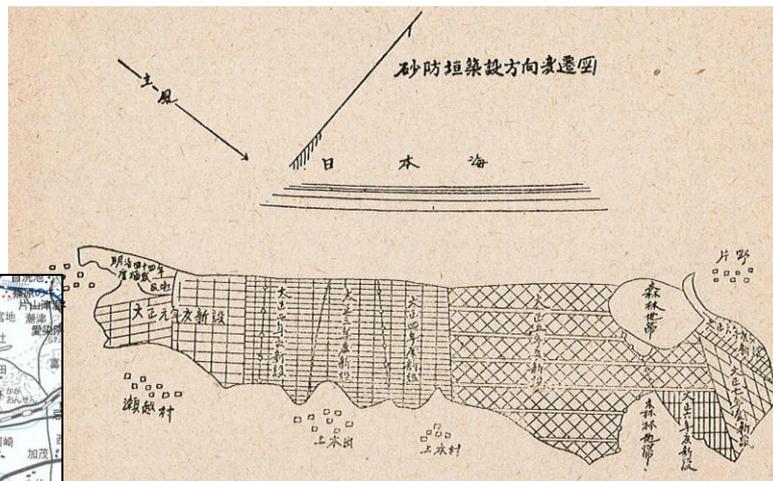
着手前の荒廃状況（明治43年）



植林と防風垣作設状況（大正7年）



成林状況（平成24年）



植林と防風垣作設平面図



○所在場所

石川県加賀市上木町ほか 加賀海岸国有林

○施設・工法の概要

事業実施面積291ha(延長約3km、幅約0.6km)
クロマツ外植栽・防風垣・前丘造成

○解説

加賀海岸は、江戸時代には荒涼たる砂漠状態のため、暴風による飛砂が激しく、人家、田畑が埋没する被害に悩まされており、当時の大聖寺藩が植林を行いました。廃藩置県により世話役が不在となり再び荒れ始めました。

このため、明治44年に石川県知事の要請を踏まえ海岸砂防事業として14年をかけて広大な森林を造成しました。造成は、冬期は日本海からの暴風による飛砂、潮風害により事業は困難を極め、防風垣の設置方法や植栽方法の見直しが図られるなど検討を重ね、事業完了後も補修、補植を重ね成林させたものです。